

スズメバチ (スズメバチ科)



▲オオスズメバチ



▲キイロスズメバチ

日本には3属16種のスズメバチがありますが、特にオオスズメバチとキイロスズメバチは攻撃性が強く、全国的にも繁殖期(9月中旬～10月下旬)を中心に刺傷事故が多発。毎年20～30名の死亡例があります。

スズメバチの習性や刺されないための工夫、刺された時の処置など、正しい知識が身を守ります。

特徴 【オオスズメバチ】スズメバチ類の中で最も大型で、女王バチ40～45mm、働きバチ27～40mm、オスバチ35～40mm。地中に巣をつくり、春 ▶ 越冬した1匹の女王蜂が巣をつくり、繰返し産卵して働き蜂(メス)を増やしていきます。夏 ▶ 働き蜂は、巣をどんどん大きくして10月頃に最大になります。秋 ▶ 巣の中でオス蜂と来年の新女王蜂が誕生して繁殖期を迎えます。この時期は外敵から巣を守るためにコロニー全体がピリピリした緊張状態になり最も攻撃的に。毒液(警報フェロモン)を空中散布して仲間を集め、集団で襲ってきます。冬 ▶ 新女王蜂は1匹で、朽木や枯木の下などで越冬します。古巣の女王蜂、働き蜂、オス蜂は死んでしまい巣は空になります。

【キイロスズメバチ】女王バチ25～28mm、働きバチ17～24mm、オスバチ28mm。木の枝、軒下などに巣をつくり、生活史や性質はオオスズメバチと同じです。

すみか 【オオスズメバチ】倒木や地面などの閉鎖空間に巣をつくり、そのため巣を発見するのが難しく気付かないで巣に近づき襲撃されることが多々あります。巣の近くを通行する振動に興奮して攻撃することがあります。また、樹液によく飛来しますが、縄張り意識が強く、餌場においても威嚇や攻撃が見られます。数百匹で群れをつくり、

【キイロスズメバチ】樹洞などの閉鎖的な場所から木の枝などの開放的な場所、民家の軒下や天井裏、床下など様々な場所にフットボールのような形の巣をつくり、巣の規模は大きく、直径1メートル近くになることもあり、群れは1000匹に達することもあります。オオスズメバチと並んで攻撃性が非常に強く、巣の近くを通っただけで攻撃されることがあります。

症状 刺されるとハチ毒が瞬時に皮下組織に拡散。更に血管系を通じて全身を巡り、免疫系や神経系の情報処理機構を攪乱します。刺された直後から非常に激しい痛み、数分後には患部の炎症と腫れ、体温上昇等の症状がみられます。何度も刺され体内に注入された毒量が多いと麻痺が起き、やがて呼吸不全や心停止に至ります。毒液が目に入ると角膜が潰瘍を起こし失明することがあります。

過去に刺されたことがある場合、短時間(数分～30分以内)にアナフィラキシーショック(アレルギー症状)を起こし死に至ることがあります。▶ 呼吸困難、意識朦朧、血圧低下、発疹や浮腫(膨張)の症状が見られたら、救急車を呼んで速やかに病院に行き、治療を受けます。(アレルギーがなければ数箇所刺されたくらいの毒量では問題はありません。殆どの死亡例は、過剰な抗原抗体反応(免疫反応)に伴うアレルギー性ショック死です。)

治療 刺された部分を強くつまみ毒を絞り出しながら、患部を大量の水で洗います。毒は水溶性なので、成分の毒を洗い出し、冷やす効果があります。毒を口で吸うと、口の中の傷から毒が体内に入っている可能性があります。市販されている吸引器具を使いましょう。

患部の腫れや痛みには冷湿布し、副腎皮質ホルモン含有の抗ヒスタミン軟膏を塗ります。「アンモニアで毒を中和する」「尿をかければ治る」というのは全くの誤り(非科学的な迷信)です。

重症の場合は、患部を冷やし、迅速に医療機関で手当てを受ける必要があります。

予防策

○スズメバチは、毎年、必ず出現します・・・



- ・立田山（雑草の森周辺）には、スズメバチが巣をつくり、雨や風をしのぎ易い大きな樹木やホコラがいたるところにあります。餌となる樹液を出す大好きなコナラやクヌギなどの大木も沢山あります。残念ながら、立田山はスズメバチ生息に最適な環境です。（写真はキイロスズメバチの巣）
- ・4月～6月の女王蜂が一匹で生活している時期に、巣と一緒に女王蜂を除去できればいいのですが巣が小さくて見つけることはなかなか困難です。

・夏から秋、立田山（雑草の森周辺）には「必ずスズメバチが出る」と言っても過言ではありません。

○スズメバチから身を守るために・・・

- ・黒い色はスズメバチの攻撃目標になります。黒い服を避け、白っぽい服（長袖、長ズボンがよい）を着ましょう。また、髪を隠すために帽子をかぶりましょう。長袖、長ズボン、帽子などは、刺されてもスズメバチの針が身体に深く刺さるのを防ぎます。
- ・スズメバチはニオイに敏感です。香水や整髪料、ヘアスプレーなどの化粧品はスズメバチを刺激します。バーベキューなどをしたときに飲み残しのジュースやアルコール飲料に飛んで来ることもあります。ニオイの強いものを身につけたり、ジュースなどを放置しないようにしましょう。
- ・スズメバチは音や振動に敏感です。巣の近くで大声を出したり、強い振動を与えると危険です。虫除けの超音波発生器にも敏感に反応します。野山に入ったら注意深く周りを観察しながら、静かに、ゆっくりと歩きましょう。
- ・緊急事態に備え、市販の殺虫スプレー（製品名：ハチノック、ハチジェットなど）、吸引器具（製品名：ポイズンリムーバー）、ヒスタミン剤を含むステロイド軟膏（製品名：ムヒアルファ EX、オイラックス H 軟膏、セロナ、レスタミン軟膏など）を携帯すれば安心です。



○スズメバチに出会ったら・・・

- ・スズメバチには、門番役（偵察）のハチがいて、巣から数メートルから 10 メートル以内に近寄るとカチカチと威嚇音を発します。また、警報フェロモンを空中に散布して仲間のスズメバチに知らせ、大群に集中攻撃されることがあります。スズメバチが身体の周りを飛び始めたら近くに巣があり危険です。数匹だからといって油断は禁物です。
- ・スズメバチは、「音や振動」、「黒い色」、「左右や横向きの急激な動き」に反応、興奮しやすいので、次のようなことに注意して、直ちにその場を離れましょう（少なくとも 10 メートル以上）。
 - ▶ **ハチが接近しても、驚いて声高に騒いだり、走り回ったりしない。**
 - ▶ **白いタオルやハンカチ、衣服などで頭（黒色）を隠す。**
 - ▶ **ハチを手や衣服で追い払わない。タオル等をヒラヒラさせない。**
 - ▶ **姿勢を低くして（スズメバチは目線の下は見えにくいためリスクが軽減）、ゆっくり後退（スズメバチは前後の動きには鈍感）する。**
- ・スズメバチは、毒のある限り何度でも刺します（ミツバチは一度刺したら死にます）。また、1匹のハチに刺され毒液が放出されると（警戒フェロモンがまき散らされるため）、これに刺激された多数のハチの攻撃を受けることがあります。何度も刺されると重症となることが多く危険です。
- ・巣を見つけても決して近づかず、棒でつついたり、石を投げたりして巣を刺激してはいけません。
- ・市販のハチ駆除剤は主にアシナガバチやアブ用です。素人がスズメバチの巣に向けて噴射すると、手痛いしっぺ返しを受けたり、駆除できなかった巣の中のハチが物凄く怒ってあたりかまわず攻撃して事態を収拾できなくなる可能性があります。
- ・スズメバチは、コナラやクヌギなどの樹液によく飛来しますが、縄張り意識が強く、餌場でも威嚇や攻撃をすることがあります。餌場のスズメバチにも注意しましょう。